

平成26年度 共晶会関西支部活動報告

関西支部では毎年3月第二土曜日の午後に大阪市内で支部総会と懇親会を開催している。今年は、3月14日土曜日11時より大阪市梅田の「阪急ターミナルスクエア17」で行った。阪急ターミナルスクエアでの開催は昨年に引き続き2年目である。名古屋より、山内名誉教授、市野教授のお二人をお招きした。昨年より3名多い、総勢26名での盛会となった。

山内名誉教授より、風媒社より出版された『人類と資源—資源の立場から見た持続性—』(2012年4月)の続編『人類とエネルギー—我が国の再生可能エネルギーとエネルギー資源の持続性—』(2014年8月)に因んだご講演があり、着眼点と切り込みの鋭さに感銘を受けた。市野教授より名古屋大学の近況報告があり、連続するノーベル賞受賞に活気づくキャンパスの様子が垣間見られて感慨深いものがあった。

昨年は出席された昭和23年卒業の澤村信幸関西支部顧問がご都合で欠席されて残念であったが、昭和28年卒業の日口章氏、昭和34年卒業の水野祥氏、昭和38年卒業の稻垣彰氏、稻葉晋一氏は相変わらずお元気であった。名物の一つとなってしまった昭和44年卒の花木幸男氏の目をつむりながらの近況紹介も健在であった。現在の出席者年齢構成は昭和53年付近に中央値がある。こここのところ欠席されている関西在住の同世代の諸先輩方も往復葉書き返信での近況報告のみではなく、次回からはご参加を再開願いたい。言い尽くされてはいるが、毎年参加が重要である。また、若手を招き入れてゆくことも課題である。今年より、若手参加者の参加費は安く設定するようにした。積極的な参加を切望している。

共晶会関西支部メンバーの全学同窓会関西支部への参加促進も課題である。今年は、5月16日土曜日午後1時半より堂島の中央電気倶楽部で開催された。共晶会関西支部総会と開催時期が近接していることもある、共晶会関西支部メンバーの参加は毎年低調である。昨年は2名参加であったが、今年は3名の参加となった。名古屋大学松尾学長、日本IBM(株)橋本副会長がおいでになり、橋本副会長が『IBMのグローバル経営と次世代IT技術がもたらす新たな社会』という演題で講演をされた。人工知能開発、優秀な女性の更なる活用に向けた会社支援制度改革、IBMにおける性差別(ジェンダー)問題への対応など興味深い話題が次々と取り上げられた。全学同窓会は、日頃は見聞きしない全く違う世界に触れられる非常に良い機会である。人の輪を広げる場として活用して欲しい。

関西支部長 樽谷 芳男 (tarutani@nn.ijj4u.or.jp)



平成26年度 共晶会関西支部懇親会記念写真 (H27年3月14日)

平成26年度共晶会関東支部活動報告

平成26年度共晶会関東支部総会には名古屋大学から御招きした金武直幸教授並びに細井先生や星野先輩も相変わらずお元気な姿で同窓生を含め18名の方々が参加されました。金武先生は1973年名古屋大学工学部鉄鋼工学科のご卒業で、1978年工学研究科金属工学および鉄鋼工学博士課程を修了された後、助手、助教授を経て現在工学研究科マテリアル理工学専攻の教授をされています。名古屋大学生え抜きの先生で、かつ、学生時代からずっと戸澤研とともに歩んでこられた今では非常に貴重な方であられます。また、工学研究科の付属材料バックキャストテクノロジー研究センターの所長も兼任され、非常に忙しい日々を過ごされる中、関東支部総会に足を運んでいただきました。

講演会は、昭和14年に金属学科、昭和37年に鉄鋼工学科が設立され、以降約20年毎に組織体制が変革されてきており、新しい変革後既に10年を経過しており、そろそろ更に変革を遂げねばならないという出だしで始まりました。

大学に求められる方向は「評価と競争」であり、特色ある学科、外部資金を求められる分野・人、基幹分野と先端分野のバランスが必要である事が紹介され、また、世界的な研究拠点の形成が必要であり、グリーンモービル研究開発拠点、ナショナルコンポジットセンターやシンクロトロン光センターについて、さらに文科省によるCOIの拠点として5号館前に7階建てのビルが建設中である事が説明されました。

金武先生の研究は、材料制御工学研究室にて革新的プロセスによる高機能材料の開発だそうで「構成要素+プロセス=性能・機能」という構図の中でプロセスを未知数としておこなっているとのことです。圧縮捻りによる剪断変形で形状は変化しないが、組織が大きく変わるという例を、Al合金を始めとしていくつかの例を紹介していただきました。参加者一同非常に興味深く講演を聴く事が出来、講演の最後に多くの方から質問がありました。

今年の支部総会は名古屋大学で10月にノーベル賞受賞で沸き立っている翌月に行われた事もあり、賞を中心に各テーブルで話しが盛り上りました。学科こそ違えど、名大の卒業生として嬉しさがこみ上げるのは否めません。今世紀に入ってからのノーベル賞に限れば、日本人の受賞者11人中、6人が名大を卒業したか、在席した研究者で半分以上を占めていることについては誇りにも思えます。そのような追い風があったためか、今年は去年より参加者が4名増加しました。夏頃から支部総会の事務局を務める黒岩さんが鋭意努力をしていただいた事も寄与していると思われます。そのような努力の中で共晶会の名簿内容が関東支部の名簿に反映されていないのはどういうわけかとのお言葉も頂戴しておりまして、今後は来年の総会に向けて関東支部として改善を図っていきたいと思っています。今年も先生を囲んで人生経験豊富な色々な方々とともに歓談の時を過ごすことができ、予定した時間があつという間に終わった感がありました。写真撮影を最後に行い、来年の再開（2014年11月8日の予定）を祈念して閉会となりました。

（共晶会関東支部長 柴山卓眞）



柴山支部長 開会の挨拶



金武先生 特別講演



細井先生 乾杯のご発声



会食 全出席者の近況報告



全員で記念撮影